

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104484
法人名	医療法人社団 江島医院
事業所名	グループホームもみじの里
所在地 (電話番号)	広島県南区宇品御幸1丁目11番9号 (電話) 082-253-0067

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年2月2日

【情報提供票より】(平成19年12月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月1日	
ユニット数	2 ユニット	18 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄骨四階建陸屋根造 地上4階建2, 3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷金	有(300,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	550 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17 人	男性	0 人	女性	0 人	
要介護1	5 人	要介護2	4 人			
要介護3	4 人	要介護4	3 人			
要介護5	0 人	要支援2	1 人			
年齢	平均	— 歳	最低	— 歳	最高	— 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団江島医院(内科), 三上歯科, ひらた眼科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームもみじの里は、経営母体である医院に隣接するホームで、綿密な医療との連携により、利用者や家族の安心感が得られています。母体法人は古くから地域に根ざしており、子どもの安全のための地域パトロールに協力されている他、地域の人の見守りのもとで、カラオケボックスやクリスマスイルミネーション散策など、利用者の希望に沿った外出を頻繁に行い、利用者が日々の生活の中で、感動や満足感を感じられるよう工夫されており、事業所の特色を活かしながら、地域に密着したホームづくりが行われています。

また、体験利用期間として、1か月という期間を確保し、サービス開始前から、利用者一人ひとりの状況や生活歴、得意なこと等の把握に努め、町内祭りの由来などの昔ながらの地域住民ならではの知識等、利用者がこれまで培ってきた経験や生活の知恵を職員が学ぶ場面づくり、機会づくりを行い、利用者一人ひとりの思いに沿ったその人らしい暮らしが支援されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、見守りによる服薬管理は行われていましたが、薬の効能や副作用、用法や用量等の服薬にかかる注意点について全職員への周知徹底が課題とされていました。評価結果をもとに、かかりつけ医と連携を図りながら、職員間で薬についての情報を共有し、服薬カレンダーの作成や当番を決めるなど、適切な服薬管理が確実に進められるよう工夫されており、利用者が安心してできるよう取り組まれています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をホーム独自の取り組みや今後取り組むべき課題等について再認識する機会と位置づけ、前向きに取り組まれています。また、ミーティング等の機会に、評価結果を職員間で共有し、意見交換の頻度を高めていくことで、サービスの質向上につなげられています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催案内を町内会に回覧するなど、地域の理解と協力が得られるよう取り組まれており、利用者、家族、町内会、地域包括支援センター、協力医院、行政担当者等、多数の参加のもと、2か月ごとに開催されています。会議では安全パトロールをはじめとする地域活動によって培われた地域住民との信頼関係を大切にしながら、積極的な意見交換が行われており、地域の風習に熟知した参加者から、地域性を踏まえた情報が得られることで、今後の地域との協力関係のあり方を学ぶ場にもなっています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会はありませんが、ホーム行事の際の食事が家族同士の懇親の場にもなるよう、機会がつけられており、行事参加や訪問の機会を通して、意見や思いを表したり、気軽に相談が行えるような雰囲気づくりに努められています。また、意見はサービスの質向上のきっかけとして前向きに捉え、職員全員で話し合いながら、ケアサービスの質向上に取り組まれています。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一員として、町民運動会、祭り等の地域行事や地域の安全パトロールへ参加されている他、花火大会の見学会場として、ホームを開放するなど、地域の人との交流に積極的に努められています。また、多種にわたるボランティアを受け入れ、地域の人々が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを行うことで、地域の人との馴染みの関係が築かれています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念が利用者の穏やかな暮らしを支えるためのケアの基本であるとの認識のもとで、全職員にホームの理念、目標を周知徹底するとともに、理念に沿ったケアが実践できるよう取り組まれています。また、ホームページや毎月の郵送物を活用し、理念やホームの取り組みについて報告するなど、地域や家族とのつながりを大切にされたホームづくりがすすめられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と目標が利用者の暮らしを支える原点であることを全職員が認識、共有したうえで、日々のケアの中で何を優先すべきか、職員一人ひとりが理念に照らしながら、個別ケアの実践に向けて取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町民運動会、祭り等の地域行事や地域の安全パトロールへ参加されている他、花火大会の見学会場として、ホームを開放するなど、地域のひととの交流に積極的に努められています。また、多種にわたるボランティアを受け入れ、地域の人が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりを行うことで、地域のひととの馴染みの関係が築かれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をホーム独自の取り組みや今後取り組むべき課題等について再認識する機会と位置づけ、前向きに取り組まれています。また、ミーティング等の機会に、評価結果を職員間で共有し、意見交換の頻度を高めていくことで、サービスの質向上につながられています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催案内を町内会に回覧するなど、地域の理解と協力が得られるよう取り組まれており、利用者、家族、町内会、地域包括支援センター、協力医院、行政担当者等、多数の参加のもと、2か月ごとに開催されています。会議では安全パトロールをはじめとする地域活動によって培われた地域住民との信頼関係を大切にしながら、積極的な意見交換が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ行政担当者の参加が得られている他、行政へホーム便りを届けるなど、積極的な情報交換と共有に努められており、日常的に行き来できる関係を深められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお知らせとともに利用者一人ひとりの暮らしぶりについて報告されています。また、家族会はありませんが、ホーム行事の際の食事が家族同士の懇親の場にもなるよう、機会がつけられており、ホーム内に家族間の交流の場があることが、家族の安心感につながっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の行事参加や訪問の機会を通して、意見や思いを表したり、気軽に相談が行えるような雰囲気づくりに努められています。また、意見は確実に記録に残すとともに、サービスの質向上のきっかけとして前向きに捉え、理事長、施設長、各ユニットで共有しながら、ケアサービスに反映できるよう取り組まれています。この取り組みが家族との信頼関係の構築や意見を苦情に発展させない運営につながっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員のなじみの関係に配慮し、職員の異動が最小限に抑えられるよう取り組まれています。やむを得ず、異動等が生じた場合には、職員の特性を考えた配置を行うとともに、利用者一人ひとりの思いに配慮したコミュニケーションが図られており、利用者が安心して暮らせるよう支援されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営主体、管理者ともに職員研修の重要性を認識されており、全職員に外部研修の機会が確保できるよう取り組まれています。また、研修終了後には、研修で得られた内容を反復して学ぶ機会を設けるなど、知識や技術を全職員で共有しながら、ケアのスキルアップに向けて取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	単独設置ホームのプラス面とマイナス面を認識し、同業者とのネットワークづくりを心がけられており、他事業所の見学や交流会を通して同業者との交流を深めながら、積極的に情報交換・共有を行い、サービスの質向上につながられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用期間として、1か月という期間が確保されている他、必要に応じて家族と一緒に体験利用を行うなど、利用者や家族がホームの雰囲気や他の利用者、職員になじみ、安心してサービス開始が行えるよう取り組まれています。また、体験利用の際に、利用者一人ひとりの状況の把握や情報の収集に努められており、それらをサービス開始後の暮らしやケアに反映できるよう取り組まれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、編み物といった趣味活動の他に、町内祭りの由来などの昔ながらの地域住民ならではの知識等、利用者がこれまで培ってきた経験や生活の知恵を職員が学ぶ場面づくりや機会づくりが行われており、「支援する」「支援される」という関係にとどまらない、共に支えあう関係づくりがすすまられています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体験利用の期間を十分に確保することにより、サービス開始前から、利用者一人ひとりの状況や思いを把握し、それらの情報が日々の個別ケアに活かされています。また、利用者の状態の変化や個性を尊重しながら、一人ひとりの意向に沿った暮らしが支援できるよう取り組まれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を把握したうえで介護計画が作成されており、家族の訪問時には、介護計画について説明を行うとともに、カンファレンスに家族の参加が得られるよう働きかけが行われています。また、モニタリングの結果をもとに、主治医等と連携を図りながら、利用者の思いを反映した暮らしを送るための計画が全職員の話し合いによって作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの状態の変化等について詳細に記録されており、記録をもとに全職員でモニタリングを行いながら情報の共有に努められています。また、家族等と計画について話し合う機会を頻繁に持ちながら、必要に応じた見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を母体としたホームであり、綿密な医療との連携により、利用者や家族の安心感が得られています。また、母体法人は古くから地域に根ざしており、地域のひととの信頼関係をもとに、外出時の見守り支援をお願いしたり、ホームも子どもの安全のための地域パトロールに協力するなど、事業所の特色を活かした柔軟な支援が行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医を確認し、利用者一人ひとりに応じた適切な医療が継続して提供できるよう支援されています。現在は、利用者のほとんどが母体法人の医院をかかりつけ医とされており、週2回の訪問診療とともに、緊急時の他病院との協力など、利用者の健康を支援する体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて、利用者・家族の思いをもとに、かかりつけ医と連携を図りながら方針が定められています。また、ホームで最期を迎えるにあたっては、職員が家族と同じような気持ちで、利用者寄り添ってケアできるよう心がけられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに配慮されています。また、契約時に、個人情報の取り扱いについて説明し、同意が得られている他、ホーム便りやホームページへの写真掲載等については、その都度了解を得るなど、個人情報の保護が徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム行事は予定表に沿って行われていますが、日々の暮らしについては、ホームとしての予定を決めず、利用者の体調やその日の思いに合わせて、個別に対応されています。また、利用者が思いや希望を表わせるような雰囲気づくり、信頼関係づくりに努められており、その人らしい暮らしの支援が行えるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食材選び、調理方法について、利用者の嗜好や健康状態に配慮しながら、試行が重ねられており、利用者一人ひとりの状態にあったメニューとなっています。朝・夕食は、食事の盛りつけや味見・後片づけなどを利用者と一緒に、役割づくりが行われている他、昼食は配食を利用して、利用者との関わる時間を多くとれるようにするなど、食事を楽しめるよう工夫が行われています。また、食事介助は、一人ひとりに合った、さりげない見守りや声かけが行われており、家庭的な団欒を感じる雰囲気でした。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や習慣に応じた時間帯に毎日入浴できるよう体制を整えられており、利用者の思いや生活習慣を大切に支援が行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴の把握に努め、「できること」「得意なこと」が生活の中で発揮できるよう、場面づくりに取り組まれています。長年、理美容に携わってきた利用者が、はさみを使用した仕事を行うなど、利用者がこれまで培ってきた知識や技術を発揮する場面づくりを行うことで、自信の回復や生活に対する意欲が向上するよう取り組まれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の人の見守りのもとで、カラオケボックスやクリスマスイルミネーション 散策など、利用者の希望に沿った外出が頻繁に行われています。これらの取り組みによって、利用者が日々の生活の中で、感動や満足感を感じられるよう工夫されており、日中の生活の充実が夜の安眠にもつながっています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、鍵かけは行わず、職員の見守りによって利用者の安全に配慮されており、エレベーター等も自由に利用できます。また、利用者の状態の変化等により、見守りだけでは対応できない場合にも、安全を確保したうえで、利用者が自由に活動できるよう検討が行われています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の消防訓練が実施されており、全職員が災害対策についての意識を高く持たれています。地域との合同訓練は実施されていませんが、地域と協力することの必要性については理解されており、地域の協力が得られるよう働きかけが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の特性を認識したうえで、看護師による適切な健康管理が行われており、毎日のバイタルチェックと水分摂取量の確認・記録を徹底し、1日を通して必要な水分や栄養が確保できるよう取り組まれています。また、利用者の好みや状態に応じて、水分補給にゼリーを使用するなど、個別の対応が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調による換気だけでなく、自然換気を心がけ、自然の空気を十分に取り入れ、季節の風や空気を感じられるよう、心がけられています。また、屋上に洗濯物を干したり、おやつを食べるなど、空間を活用しながら、季節の移り変わりを感じたり、五感が刺激されるような工夫が行われています。訪問調査の際には、玄関から各ユニットまでのアプローチに、手づくりのクリスマス飾りが装飾されており、季節感とともに、家庭的な温もりが感じられました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳やベッドなど、これまでの生活習慣に応じた居室が準備されています。使い慣れた家具が持ち込まれており、一人ひとりの個性が溢れた雰囲気となっています。家族の訪問時には、居室で利用者と一緒にとったりと時間を過ごすよう配慮されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームもみじの里 2F

評価年月日 H19年 11月 20日

記入年月日 H19年 12月 1日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理職 氏名 木原 幸枝

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

1 I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ご利用者様一人お一人の尊厳を守り豊かで素晴らしい人生を送って頂けるよう今後も地域との密着を大切に支援していきたいと思う。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	代表からも理念の実践について強く伝えられている。職員も日々実践につなげている。理念の意味もよく理解できている。	○	GHの理念をフロアーの壁に掲示し、常に心にとめるようにしている。 ミーティング等、職員の集まる時に理念の再確認を心掛けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご利用者のご家族には毎月のお便り、地域の方には回覧板にてホーム便りをお送りしている。玄関にも重要事項説明書を掲示ホームの理念をみなさんの目に留まるようにしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的にあいさつも交わされている。果物、野菜など時に差し入れて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	小学校の通学路安全パトロールに参加、お祭り、町民運動会など町内会の行事に参加させていただいている。地域の方からもホームに食器、果物などを持ってきていただき地域浸透を実感している。	○	行事の予定を、見えやすい玄関ホールに掲示している。 町内運動会への参加、安全パトロール、近隣の保育所のお遊戯会や運動会の見学等をこれからも続け、地域の方々との交流を深めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の中では特に行っていない。電話相談など頂いた時には対処している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で行っている。ミーティングなどで相談し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2ヶ月運営推進会議は常に実施されている。ホーム内の状況報告をおこない意見交換されている。取り組みについても報告しサービスの向上に努めている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの方を交え、地域のグループホーム職員、市の職員と意見交換を行う場所が設定されている。時に市の窓口に立ち寄りホーム便り等お渡ししている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会への参加は行っている。必要時には関係者と取り組みについて話し合い支援を行ったこともある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については職員全員が理解している。防止にも努めている。	○	高齢者虐待防止法について理解するための時間をとり、実際にどのような行為が虐待にあたるのかを全職員が学んだ。今後も勉強会などを開催し、防止に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては説明を行い充分理解していただくようにしている。今までにも特に問題は聞かれていない。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	玄関には苦情箱を用意し重要事項説明書でもご説明させていただいている。ご家族にも面会時、お会いしたときは少しでも意見が聞けるようお話する機会を作っている。聞かれた意見は取り入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族には毎月、近況を報告（ホームでの生活、健康状態、金銭管理等）している。必要に応じ個々に電話連絡し報告を行っている。	○	ご家族様の面会時には、入居者様のご様子を必ずお伝えするようにしている。 今まで通り毎月、封書にてGHでの行事内容や暮らしぶり、健康状態等をお伝えしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族とはできるだけコミュニケーションを図っている。意見が聞かれればいつでも運営に反映し、外部者へも表していきたい。	○	来訪時のみでなく、電話、その他の方法によってもご家族様が意見の言い易い対応に努めていきたい。 また聞かれた意見については、外部者へも表し運営に反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで意見交換はされている。個々にも意見を聞く機会があり常に反映できる状態にしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者様に生活上で負担のないよう柔軟な対応はされている。外出希望、検査、通院、理美容院等、細かな要望にも対処できるよう職員が協力調整を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用様に馴染みの関係が支援できるよう職員の移動はほとんど行っていない。ホーム内でのご利用者様、職員の交流もできておりご利用者様はホーム職員全員が顔なじみになっていると思われる。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム外での研修は職員が交替でできるだけ参加するよう対処している。研修報告を毎月のミーティング時、研修参加者が報告する機会も作っている。	○	GH外での研修を受けた職員より、ミーティング等にて伝え教えることにより、全職員の育成を図っていききたい。 その時々々の必要性を考慮し、GH内での勉強会を開催していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	単独のグループホームである為、同業者とのネットワーク作り、交流会、勉強会と職員が交替で参加できるよう対処している。1回/2ヶ月GH交流会の参加、情報交換、今年度は他のグループホームへの見学会参加もさせていただく予定である。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員にはできるだけストレスのかからないよう配慮している。勤務体制の配慮、時間をかけ個々に話を聞くなど気持ちがあくくだけでも聞き出せるように常に様子を気にかけて対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員一人一人の個性を大切にしている。各自が自分のペースで前に進めるよう、責任を持って仕事にかかわれるよう業務の担当制、研修参加など行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所前にはご家族と相談し、入所前訪問を行っている。入所時よりケアプランを作成、ご本人の情報をたくさん頂けるようご家族の協力も頂く。ご本人にとって何が必要か信頼関係にも一番に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	良い信頼関係が築けるよう常に努めている。ご家族からも話を伺い受け止める努力は行われている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時、その時に必要なサービスを提供している。医療、保健、介護、他、納得のいかれる提供を行ってきた。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人がホームに馴染めるか、ご家族に安心していただけるか、1ヶ月はお試し期間を持ち生活していただいている。ご本人、ご家族に相談様子を観てからの入所に至っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽はともに行っている。職員はご利用者様から人生経験のなかでも色々学ぶことも多く支え合う関係を築いている。	○	毎日の生活の中で、ご利用者様から教えて頂くことが多々ある為、職員はご利用者様に対し人生の大先輩として敬重の念をもっている。この敬重の念のもと今まで同様、喜びや悲しみを、分かち合っていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との協力のなか、ご本人の支援がききやすい話し合いケアプラン等に活かしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の関係がより良くなるように、ご本人とご家族の声かけはし渡しを行っている。今までにトラブルは特にありません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	「自宅へ帰りたい」と希望される方にも定期的にご自宅へ帰れるようご家族の協力をへている。理容院やスパなど馴染みある場所にも出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同士に特に問題はなく孤立されることもない。レクリエーションでなごみの関係を作ったり、食堂席などに配慮している。	○	毎日行う家事等も、馴染みの関係を深める為、複数で行えるよう配慮している。通院や散歩・買物等も、個々人単位ではなく、人間関係を把握し気の合うグループ毎に行っている。どのご利用者様も孤立されることなく、支え合いの関係が深まるように努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても必要があればお手紙等にて連絡、必要があれば支援も行っていく方向である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけご希望は聞いている。常に本人本位になって考えている。外出、食事、入浴、行事等、色々なことに対してご希望、意向は伺い対処できるようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時よりご本人の過去の生活歴などできるだけの情報収集をおこない生活に活かせるよう配慮しています。まだまだ充分ではありませんが生活歴用紙、センター方式作成記載しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員はお一人お一人の体調を把握し、ご本人のご希望を大切に一日を支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は入所時より定期的に作成されています。ケアカンファレンスにはご本人、ご家族、主治医等の意見を反映させ作成しています。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月行うミーティング時にモニタリングをおこないケアプラン変更を検討をしています。ご本人の現状を把握し検討されています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに合わせた個別記録を作成しています。日々の様子をしっかりと把握できるよう薬、歩行状態、体調の変化等、記載し情報の共有に取り組んでいます。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	単独のグループホームである為、事業所の多機能性はありませんが、母体が医療法人であり医療との連携は毎日図られています。		
----	--------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方にボランティアで行事に来ていただいたり、消防の方参加で消防訓練の実施。学区内の安全パトロール参加など行っています。		
----	---------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域のケアマネージャー、サービス事業者との意見交換、情報を頂くなどの関係はできています。入所者様の中では入所前の生活習慣を考えご家族に相談、医療関係のデイケアを利用されている方もいます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターの方は、1回/2ヶ月、ホームの運営推進会議に必ず参加されます。総合的な情報交換も行えています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時よりご本人、ご家族と相談し主治医を決めています。ご本人が安心して医療が受けられるよう支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームDrと相談し専門医受診方向となっています。必要時には通院、往診を受けることもありました。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日のように母体の医院より看護師が体調管理に来ています。職員も心配な事があればいつでも相談できる体制が整っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	職員は入院中は必ずお見舞いに行きます。病院からの情報も頂くようにしており、ご家族と医療関係者とも相談し安心した生活に繋げるよう配慮を行っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ホーム入所時ご家族にもターミナルケアについてはお話し、ご本人にもケアの方向性を伺っている。 重度化したご利用者様に、ご家族様・医師との話し合いのもと、エアマット、HOT等の器機を導入し、今後の方針を共有し支援した。	○	これからも、ご本人様・ご家族様やDrと話し合いをもちながら、全員で方針を共有しつつ、連携を図り対処していきたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を重視し、ホームで取り組めることをきちんとご説明し支援していきます。	○	終末期のご利用者様・ご家族様とDrを交えた話し合いにより方針を決定し、毎日、医療機関との連絡を取り、チームとしての支援に取り組んできた。 これからも変化に備えて、検討や準備を行っていききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人の不安のないよう十分配慮して対応します。いまままでトラブルはありません。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーには配慮していますが今後も十分行っていきます。個人情報の取り扱いについてはご家族に同意書を頂きその範囲内で提示させていただいています。	○	これからも、誇りやプライバシーを損ねないように十分な注意をしていきたい。記録などの管理も徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の自己決定は大切にしています。毎日の生活の中でもご自分の意思、希望等で決めて頂き日常を送っていただくようにしています。	○	難聴・発語困難などにより、コミュニケーションが難しいご利用者様にも、職員が思いや希望を表せるように働きかけ、自己決定を大切にしている。 これからもコミュニケーションスキルを学び、ご利用者様の意思を重視していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけご本人のペースに合わせゆっくりした生活を送っていただいています。職員も個々の生活のリズムを把握しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入所時よりご本人のご希望される理容院へ毎月行かれる方もいます。みなさま毎朝鏡を見てひげそりや整容をされます。服装もきちんと身だしなみには気をつけています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや味見、後片付けなどに参加していただいている。好き嫌いに合わせた副食を用意し、主食はおかゆの方、朝はパンご希望の方のなど個々に合わせたお食事をセットさせて頂いている	○	嚥下障害の方には、食欲が増し飲み込み易い食事を提供するように努めている。 ソフト食についても学んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物時、おやつなどご自分でお好きなものを選んでいただくなど対応しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔の把握をおこなっています。職員は個々の排泄パターンを把握し支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はご本人の希望に合わせ対応しています。入浴のお好きな方は毎日入っておられます。ご希望に応じ入浴時間も変更対応したこともあります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	みなさまの生活のリズムが把握されており日中も離床、臥床もその人その人に合わせ対応されています。夜間もご本人のご希望に合わせ居室でお休みです。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	みなさまホームでの生活の中でそれぞれ役割をお持ちです。生活歴を活かした支援を行っています。家事のお好きな方、体操時には大きな声でみなさまを引っ張っていかれる方、喫茶にコーヒーを飲みに行かれる方など個々の支援を大切にしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	数人の方はご自分で管理しておられます。買い物時などご自分で支払われることもあります。職員も金銭管理ができることへの理解はできています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	毎日買い物に数人の方が交代で出かけています。天候を見てお散歩も極力出かけるように支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出はみなさまのご希望を伺うようにしています。家族交流会ではご家族の方とご一緒に外食できる機会も作っています。	○	既に、名様かのご希望の所へは同行させていただいている。お一人ひとりの行きたい場所などはお聞きしているので、実現に向けて努力していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望時、ご家族に連絡される方もいます。お孫さんから手紙、はがきが届く方もおられます。毎年、ご利用者様全員が年賀状をご家族の方に送っておられます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族の方の面会は毎日のようにあります。居室でゆっくりお茶を飲み、くつろいだ時間を過ごしていただいています。知人、友人の方も時々来られています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	点滴施行時なども職員が手を握り傍で付き添っています。職員も身体拘束をしないケアについて理解しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は玄関のドアもオープンにしています。居室も鍵をかけることなく過ごしていただいています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に配慮しています。ご利用者様の安全を24時間体制で見守っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて刃物、洗剤類等の物品の安全な保管、管理はしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	お一人お一人に対しての安全の確保、福祉用具等にて対応しています。火災等を防ぐためにも消防署協力にて火災訓練を2回/年、救急訓練も行ってきました。継続対応していきたいと思います。	○	お一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいるが、これからも職員の知識や技術を深める為、訓練・研修により研鑽していきたい。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急手当、救急マニュアルについては作成していますが今後も職員が事故発生時落ち着いて行動できるよう継続して勉強会を実施する必要があると思われます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホームでの火災訓練は2回/年行っています。災害時、地域の方との協力体制が得られるよう今後も働きかけが必要と思われます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	リスクについてはご家族にご理解いただいています。常にご家族に相談、ご本人の意思を尊重し生活の支援を図っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、江島医院よりNSが体調管理に来ています。ご利用者様の体調で気になることがあれば連絡又は通院しホームDrとも常時、連携が図れるように対処しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者様お一人お一人の既往病、服薬についての一覧表を作成しています。個人ケースにも記載、情報の共有が図れるようにしています。変更についても個別記録、日誌にて職員全員に理解できるよう対処しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便表を作成し個人記録と共に職員、NSが毎日チェックしています。個々に合わせた飲食物など個別援助計画作成し対処されています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	お一人お一人に合わせた援助を行っています。入歯洗浄剤使用も個別に合わせ対処しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の献立は管理栄養士が対応しています。水分補給についても毎日、何をどのように摂取されたか嗜好も考慮し記載されています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年、入居者様、職員全員接種されています。各感染症についてもマニュアル作成、外部研修にも毎年参加しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日、配達または買い物に行っています。食器、調理用具、布きん等、毎時、除菌消毒し食器乾燥機器も使用しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの周囲に植木、花を植えて家庭的な雰囲気を作っている。玄関もオープンにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掘りごたつ、廊下のソファ、食堂席などを共有の場所にされている。ご利用者様のくつろぎの場所である。季節を感じられるカレンダー、お花などを常に飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のソファ、食堂席をうまくご利用している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時は必ずご自宅で使い慣れた物を持参していただくようにしている。使い慣れた品物でみなさま落ち着いて生活されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に空調の設置がされています。ホーム全体の換気は毎朝、夜勤職員が必ず行っている。リビングには加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりの設置。ホーム全体がバリアフリーの配慮をしています。ご利用者様の自立に合わせ居室には福祉用具を設置し環境を整えています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の居室入口に目印やプレート、写真を設置、迷わないように工夫しています。トイレや洗面所にもご利用者様が見えやすい位置にプレートを設置しています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	毎日屋上に洗濯物を干しに上がっています。屋上でおやつをいただいたり、体操、花壇のお花を摘んだりと上手く空間を利用しています。居室の窓からはお布団もよく干します。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームもみじの里 3F

評価年月日 H19 年 11 月 15 日

記入年月日 H19 年 12 月 1 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理職 氏名 西田 一美

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ご利用者様一人一人の尊厳を守り豊かで素晴らしい人生を送って頂けるよう今後も地域との密着を大切に支援していきたいと思う。	○	ホームの理念、目標、スローガンをもっと地域に浸透できるよう、今後も地域の回覧板、ホームページを活用し、地域の方、ご家族、スタッフと協力し交流を図っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	代表からも理念の実践について強く伝えられている。職員も日々実践につなげている。理念の意味もよく理解できている。	○	今後もケアの実践において常に取り組んでいきたい。新人職員にも最初に伝え実践に繋げる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご利用者のご家族には毎月のお便り、地域の方には回覧板にてホーム便りをお送りしている。玄関にも重要事項説明書を掲示ホームの理念をみなさんの目に留まるようにしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的にあいさつも交わされている。果物、野菜など時に差し入れて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	小学校の通学路安全パトロールに参加、お祭り、町民運動会など町内会の行事に参加させていただいている。地域の方からもホームに食器、果物などを持ってきていただき地域浸透を実感している。	○	運営推進会議を通し、少しずつ地域にも浸透してきだが、今後も地域の情報をいただきながら地域交流に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の中では特に行っていない。電話相談など頂いた時には対処している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員全員で行っている。ミーティングなどで相談し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2ヶ月運営推進会議は常に実施されている。ホーム内の状況報告をおこない意見交換されている。取り組みについても報告しサービスの向上に努めている。	○	町内会長、町内会組長他、毎回参加いただいているが今後はご家族代表他たくさんのご参加がいただけるよう働きかけをおこなって行きたいと思われる。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの方を交え、地域のグループホーム職員、市の職員と意見交換を行う場所が設定されている。時に市の窓口に立ち寄りホーム便り等お渡ししている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	勉強会への参加は行っている。必要時には関係者と取り組みについて話し合い支援を行ってきた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については職員全員が理解している。防止にも努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては説明を行い充分理解していただくようにしている。今までにも特に問題は聞かれていない。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	玄関には苦情箱を用意し重要事項説明書でもご説明させていただいている。ご家族にも面会時、お会いしたときは少しでも意見が聞けるようお話する機会を作っている。聞かれた意見は取り入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族には毎月、近況を報告（ホームでの生活、健康状態、金銭管理等）している。必要に応じ個々に電話連絡し報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族とはできるだけコミュニケーションを図っている。意見が聞かれればいつでも運営に反映し、外部者へも表していきたい。	○	ご家族には率直な意見を頂けることもあり、ありがたいと思っている。今後も反映に繋げて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	理事長、施設長も職員全員の意見を一人一人聞く機会を1~2回/年作ってくれている。各フロアのミーティングに合わせホーム全体のミーティング 1回/月は職員の意見、提案を聞く貴重な時間である。個々にも意見を聞く機会を聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者様に生活上で負担のないよう柔軟な対応はされている。外出希望、検査、通院、理美容院等、細かな要望にも対処できるよう職員が協力調整を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用者様に馴染みの関係が支援できるよう職員の移動はほとんど行っていない。ホーム内でのご利用者様、職員の交流もできておりご利用者様はホーム職員全員が顔なじみになっていると思われる。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム外での研修は職員が交替でできるだけ参加するよう対処している。研修報告を毎月のミーティング時、研修参加者が報告する機会も作っている。	○	ホーム外の研修は交替で参加している。法人内での勉強会を実施する機会を今後も増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	単独のグループホームである為、同業者とのネットワーク作り、交流会、勉強会と職員が交替で参加できるよう対処している。1回/2ヶ月GH交流会の参加、情報交換、今年度は他のグループホームへの見学会参加もさせていただく予定である。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員にはできるだけストレスのかからないよう配慮している。勤務体制の配慮、時間をかけ個々に話を聞くなど気持ちが少しでも聞き出せるように常に様子を気にかけて対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員一人一人の個性を大切にしている。各自が自分のペースで前に進めるよう、責任を持って仕事にかかわれるよう業務の担当制、研修参加など行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所前にはご家族と相談し、入所前訪問を行っている。入所時よりケアプランを作成、ご本人の情報をたくさん頂けるようご家族の協力も頂く。ご本人にとって何が必要か信頼関係にも一番に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	良い信頼関係が築けるよう常に努めている。ご家族からも話を伺い受け止める努力は行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時、その時に必要なサービスを提供している。医療、保健、介護、他、納得のいかれる提供を行ってきた。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人がホームに馴染めるか、ご家族に安心していただけるか、1ヶ月はお試し期間を持ち生活していただいている。ご本人、ご家族に相談様子を観てからの入所に至っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽はともに行っている。職員はご利用者様から人生経験のなかでも色々学ぶことも多く支え合う関係を築いている。	○	職員が強く取り組みたい項目の一つになっていた。日常生活の中ではご利用者様から学ぶことも多く職員も伝えられることを「ありがたい」と理解できている。喜怒哀楽を共に支えあう関係を今後も大切にしていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との協力のなか、ご本人の支援がきるよう話し合いケアプラン等に活かしている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の関係がより良くなるように、ご本人とご家族の声かけはし渡しを行っている。今までにトラブルは特にありません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	「自宅へ帰りたい」と希望される方にも定期的にご自宅へ帰れるようご家族の協力をへている。理容院やスパなど馴染みある場所にも出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同士に特に問題はなく孤立されることもない。レクリエーションでなごみの関係を作ったり、食堂席などに配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても必要があればお手紙等にて連絡、必要があれば支援も行っていく方向である。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけご希望は聞いている。常に本人本位になって考えている。外出、食事、入浴、行事等、色々なことに対してご希望、意向は伺い対処できるようにしています。	○	職員がご利用者様のお気持ちを日々お聞きしている。できるだけ対処できるよう努力していきたい。ご家族にもお伝えしご協力もいただく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時よりご本人の過去の生活歴などできるだけの情報収集をおこない生活に活かせるよう配慮しています。まだまだ充分ではありませんが生活歴用紙、センター方式作成記載しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員はお一人お一人の体調を把握し、ご本人のご希望を大切に一日を支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は入所時より定期的に作成されています。ケアカンファレンスにはご本人、ご家族、主治医等の意見を反映させ作成しています。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月行うミーティング時にモニタリングをおこないケアプラン変更を検討しています。ご本人の現状を把握し検討されています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに合わせた個別記録を作成しています。日々の様子をしっかりと把握できるよう薬、歩行状態、体調の変化等、記載し情報の共有に取り組んでいます。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	単独のグループホームである為、事業所の多機能性はありませんが、母体が医療法人であり医療との連携は毎日図られています。		
----	--------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方にボランティアで行事に来ていただいたり、消防の方参加で消防訓練の実施。学区内の安全パトロール参加など行っています。	○	まだ充分とはいえていない。今後も地域資源をもっと利用できるように運営推進会議等を活かし情報収集に努めたい。
----	---------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	---	-------------------------------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域のケアマネージャー、サービス事業者との意見交換、情報を頂くなどの関係はできています。入所者様の中では入所前の生活習慣を考えご家族に相談、医療関係のデイケアを利用されている方もいます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターの方は、1回/2ヶ月、ホームの運営推進会議に必ず参加されます。総合的な情報交換も行えています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時よりご本人、ご家族と相談し主治医を決めています。ご本人が安心して医療が受けられるよう支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームDrと相談し専門医受診方向となっています。必要時には通院、往診を受けることもありました。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日のように母体の医院より看護師が体調管理に来ています。職員も心配な事があればいつでも相談できる体制が整っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	職員は入院中、必ずお見舞いに行きます。病院からの情報も頂くようにしており、ご家族と医療関係者とも相談し安心した生活に繋げるよう配慮を行っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ホーム入所時ご家族にもターミナルケアについてはお話し、ご本人にもケアの方向性を伺っています。必要時にはホームDrに相談しご家族とも連携を図りながら対処しています。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を重視し、ホームで取り組めることをきちんとご説明し支援していきます。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人の不安のないよう十分配慮して対応します。いままでのトラブルはありません。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーには配慮していますが今後も十分行っていきます。個人情報の取り扱いについてはご家族に同意書を頂きその範囲内で提示、対応させていただいています。	○	丁寧な言葉かけが今後も行っていけるよう、接遇等の研修を実施予定である。個人情報の取り扱いについても十分配慮していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の自己決定は大切にしています。毎日の生活の中でもご自分の意思、希望等で決めて頂き日常を送っていただくようにしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけご本人のペースに合わせゆっくりした生活を送っていただいています。職員も個々の生活のリズムを把握しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入所時よりご本人のご希望される理容院へ毎月行かれる方もいます。みなさま毎朝鏡を見てひげそりや整容をされます。服装もきちんと身だしなみには気をつけています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや味見、後片付けなどに参加していただいている。好き嫌いに合わせた副食を用意し、主食はおかゆの方、朝はパンご希望の方のなど個々に合わせたお食事をセットさせて頂いている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物時、おやつなどご自分でお好きなものを選んでいただくなど対応しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔の把握をおこなっています。職員は個々の排泄パターンを把握し支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はご本人の希望に合わせて対応しています。入浴のお好きな方は毎日入っておられます。ご希望に応じ入浴時間も変更対応したこともあります。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	みなさまの生活のリズムが把握されており日中も離床、臥床もその人その人に合わせ対応されています。夜間もご本人のご希望に合わせて居室でお休みです。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	みなさまホームでの生活の中でそれぞれ役割をお持ちです。生活歴を活かした支援を行っています。家事のお好きな方、体操時には大きな声でみなさまを引っ張っていかれる方、喫茶にコーヒーを飲みに行かれる方など個々の支援を大切にしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	数人の方はご自分で管理しておられます。買い物時などご自分で支払われることもあります。職員も金銭管理ができることへの理解はできています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	毎日買い物に数人の方が交代で出かけています。天候を見てお散歩も極力出かけるように支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	外出はみなさまのご希望を伺うようにしています。家族交流会ではご家族の方と一緒に外食できる機会も作っています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望時、ご家族に連絡される方もいます。お孫さんから手紙、はがきが届く方もおられます。毎年、ご利用者様全員が年賀状をご家族の方に送っておられます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族の方の面会は毎日のようにあります。居室でゆっくりお茶を飲み、くつろいだ時間を過ごしていただいています。知人、友人の方も時々来られています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	点滴施行時なども職員が手を握り傍で付き添っています。職員も身体拘束をしないケアについて理解しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は玄関のドアもオープンにしています。居室も鍵をかけることなく過ごしていただいています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に配慮しています。ご利用者様の安全を24時間体制で見守っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて刃物、洗剤類等の物品の安全な保管、管理はしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	お一人お一人に対しての安全の確保、福祉用具等にて対応しています。火災等を防ぐためにも消防署協力にて火災訓練を2回/年、救急訓練も行ってきました。継続対応していきたいと思います。	○	職員の自信に繋がれるよう今後も定期的な勉強会を実施していきたい。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急手当、救急マニュアルについては作成していますが今後も職員が事故発生時落ち着いて行動できるよう継続して勉強会を実施する必要があると思われます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホームでの火災訓練は2回/年行っています。災害時、地域の方との協力体制が得られるよう今後も働きかけが必要と思われます。	○	今後も地域の方に協力がいただけるよう働きかけを行っていきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	リスクについてはご家族にご理解いただいています。常にご家族に相談、ご本人の意思を尊重し生活の支援を図っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、母体医院よりNSが体調管理に来ています。ご利用者様の体調で気になることがあれば連絡又は通院しホームDrとも常時、連携が図れるように対処しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者様お一人お一人の既往病、服薬についての一覧表を作成しています。個人ケースにも記載、情報の共有が図れるようにしています。変更についても個別記録、日誌にて職員全員に理解できるよう対処しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便表を作成し個人記録と共に職員、NSが毎日チェックしています。個々に合わせた飲食物など個別援助計画作成し対処されています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	お一人お一人に合わせた援助を行っています。入歯洗浄剤使用も個別に合わせ対処しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の献立は管理栄養士が対応しています。水分補給についても毎日、何をどのように摂取されたか嗜好も考慮し記載されています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年、入居者様、職員全員接種されています。各感染症についてもマニュアル作成、外部研修にも毎年参加しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日、配達または買い物に行っています。食器、調理用具、布きん等、毎時、除菌消毒し食器乾燥機器も使用しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの周囲に植木、花を植えて家庭的な雰囲気を作っている。玄関もオープンにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掘りごたつ、廊下のソファ、食堂席などを共有の場所にされている。ご利用者様のくつろぎの場所である。季節を感じられるカレンダー、お花などを常に飾っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のソファ、食堂席をうまくご利用している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時は必ずご自宅で使い慣れた物を持参していただくようにしている。使い慣れた品物でみなさま落ち着いて生活されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に空調の設置がされています。ホーム全体の換気は毎朝、夜勤職員が必ず行っている。リビングには加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりの設置。ホーム全体がバリアフリーの配慮をしています。ご利用者様の自立に合わせ居室には福祉用具を設置し環境を整えています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の居室入口に目印やプレート、写真を設置、迷わないように工夫しています。トイレや洗面所にもご利用者様が見やすい位置にプレートを設置。全盲の方にも自立して生活できるよう手すり、カーテンなどで自室、洗面所、トイレの場所が分かるよう配慮しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	毎日屋上に洗濯物を干しに上がっています。屋上でおやつをいただいたり、体操、花壇のお花を摘んだりと上手く空間を利用しています。居室の窓からはお布団もよく干します。		